

頼もしや介護の嫁のまくる腕

竹本 タエ子

自分史に生きた証の句をひとつ

田中 たづ子

蚊も哀れ一口吸って叩かれて

今川 昇

院長の明るいギャグに気が晴れる

重宗 隆治

負けん気も歳には勝てぬこの体

坪郷 英美子

俳句

短編を読み重ねたる夜長かな

馬場 精作

長き夜や活字の大きな本を選ぶ

林 保江

庭先の簡易プールに弾む声

春吉 智子

夏雲や老母はは昼間もよく眠る

田中 裕子

空高し航跡こうせき光る野島行

金内 憲一

短歌

戦争を語ることなく親が逝き孫に伝える言葉を探す

山口 正子

ゆかた着てはじめての夏少女らははじらいながらの笑顔まぶしく

中司 和子

わがままを言っても笑って包みこむ母の前では未だに子供

賤間 星

焼酎にスダチ絞りて香りかぐ疲れし体ほろりと酔いて

川本 禮子

ちの  
乳飲み子の手形の様な色なして庭の疎まばらに百日草ひやくにちそうが

原田 たえこ

自由律俳句

耳がくすぐったくないしよ話のちよつと良いこと

田中 里美

かき氷はんぶんこの甘い思い出

田中 久代

つかまえた やさしくにぎる小さな手

廣田 葵

三日月のふねにのってさがす母の星

田中 律子

デイをこばむ気持ちに冷たいサイド

西岡 悦子